

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟 第9回研修会 「公認心理師養成における大学課程の科目配置・教員配置の現状と課題」開催

2021年10月10日(日)10時より、第9回研修会「公認心理師養成における大学課程の科目配置・教員配置の現状と課題」をオンラインにて開催しました。総合司会は井村修先生(本連盟理事、奈良大学/川畑直人先生代行)で、140名強が参加し、カリキュラム、学生指導、実習演習での取り組み等について、各大学の工夫について熱心な議論が交わされました。



開会の挨拶 鶴光代先生(本連盟会長、東京福祉大学)より第9回研修会の主旨説明と挨拶、また、本連盟の今年度事業として厚生労働省から令和3年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査」を受託したので、調査にご協力いただきたい旨のお願いがありました。

講演：公認心理師制度の現状と課題—実習について



オーガナイザー：元永拓郎先生



講師：吉橋実里先生



公認心理師制度推進室：石田陸先生

オーガナイザーは元永拓郎先生(本連盟理事、帝京大学)でした。吉橋実里先生(厚生労働省精神・障害保健課公認心理師制度推進室：公認心理師専門官)のご講演と、石田陸先生(同室：資格・試験係)から確認申請等の事務手続きに関してご説明いただきました。

1. 公認心理師制度の現状 資格取得方法、現登録者数(42,867名)、試験スケジュール及び公認心理師制度の見直し(付則5条に基づく5年後の見直し)等の説明がありました。

2. 実習について 公認心理師養成カリキュラムと実習についての講話では、「担当ケース」は「心理に関する支援を擁する者を対象とした心理的支援等」であり、例えば、単なる陪席では該当せず、主体的に関わるやりとり、準備、その後の話し合い等に積極的あるいは直接的に関わる姿勢が求められる等、詳しく説明がありました。続いて、厚生労働省令和元年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の養成や資質向上に向けた実習に関する調査」(事業実施法人：国立精神・神経医療研究センター)の調査結果から、実習施設は社会人としてのスキルやマナー、医療職の規則・倫理、事前教育の充実を養成校に求めている実態等が紹介されました。本年度は同事業「公認心理師の養成に向けた各分野の実習に関する調査」が本連盟に委託されており、是非ご協力いただきたいとの依頼がありました。

3. Q&A 前回研修会での質問や公認心理師制度推進室への問い合わせが多い事項について解説されました。①COVID-19流行により実習(代替措置を含む)に変更が生じた場合は変更

届の提出が必要であること、②一時的・特例的な変更である場合は変更届にその旨を記載すること、③元の実習内容とどこが変更されているのかを具体的に記載すること、④提出時期は弾力的でかまわないこと、⑤巡回指導については養成機関と実習施設の十分な連携が確保できるのであればオンラインツールを使用しても問題ないこと等、分かりやすくご説明いただきました。

4. 意見交換 元永先生が参加者を代理する形で、吉橋先生・小林先生とのディスカッション及び質疑応答が行われました。主なやりとりは以下の通りです。①編入生の単位認定：単なる合算は認められないが、大学が読み替えを認定した場合は認められる。②担当ケース：事前準備やケース後の話し合いはケース時間として認められる。

追加回答(要約)

両先生ご退席後に寄せられた質問については、後日追加の回答(下記)をいただきました。詳細は第9回研修会ページに掲載されています。

<https://kouyoren.jp/training>

Q1 講演内の資料の出典にあった「実習及び演習の概念と科目の規定方法について②」とは？

A1 出典：「第4回公認心理師カリキュラム等検討会ワーキングチーム」の「資料」p.6

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syougai_380707.html

Q2 科目等履修生の受験資格科目等履修制度を用いての合算は試験要件として認められるか？

A2 認められない。大学院に入学後に科目等履修制度として大学の科目を修得する際も同様。公認心理師は体系的な学習を行い、その質の確保することが重要であり、大学ですべてのカリキュラムを履修・修了し、その後大学院ですべてのカリキュラムを履修・修了する必要がある。

Q3 公認心理師法第7条第2号に規定する施設大学等の養成機関において、区分B若しくは区分Fで受験する場合の「法第7条第2号に規定する施設」とは？

A3 特例措置の区分Gの実務経験5年の施設と誤認している例がある。文部科学大臣及び厚生労働大臣による認定を受けている施設で所定年数を就業し、プログラムを修了することが必要。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000210738.html>

セッション1：大学課程における国民の心理的健康の増進につながるカリキュラムマネジメントと課題



オーガナイザー：宮崎昭先生



話題提供：杉山雅宏先生



話題提供：平山篤史先生

オーガナイザーの宮崎昭先生(本連盟理事、立正大学)より、養成プロセス、大学課程のカリキュラムの概観、探求的学習態度についての解説が行われ、セッション1では、①基礎系科目の位置づけ、②教員の連携、③基礎系科目と演習実習科目との連携、④公認心理師志望者以外の学生の教育の実情をテーマとする旨の説明がありました。話題提供は2校から行われました。

1. 杉山雅宏先生(埼玉学園大学) 学科紹介、カリキュラムの内容、配当年次等の紹介のあと、心理演習・心理実習を受講する

までに身につけてほしい力として、コミュニケーション力、国語力、文章力、バランス力が挙げられました。基礎力を身につけさせる具体的工夫、課題(教員との連携、現場を知ってもらう、大学院進学への動機づけやフォロー等)をお話いただきました。

2. 平山篤史先生(沖縄国際大学) 学生状況、教員構成、カリキュラム等の紹介のあと、基礎力重視、公認心理師クラスのみ参加できる科目、「心理演習」と「心理実習」の担当教員を同じにする工夫等が示されました。毎週の会議や非常勤講師とは年1回懇談の機会を設けることで密な情報共有がなされており、学生に社会経験を積ませる工夫として、「心理ボランティア演習」で児童養護施設や児童デイ・サービス等の体験が行われていました。

3. 小グループ・ディスカッション 大学課程のカリキュラムの工夫や課題等について、情報交換とディスカッションが行われました。質疑応答では、単位取得制限等について、両話題提供者から工夫の詳細についてもご教示いただきました。

セッション2：公認心理師志望者を絞るための科目配置、公認心理師志望者以外の学生の教育



オーガナイザー：平間さゆり先生



話題提供：清水めぐみ先生



話題提供：眞榮城和美先生

オーガナイザーの平間さゆり先生(本連盟実習演習検討委員、川村学園女子大学)より、セッション2では公認心理師志望者を絞るための科目配置、公認心理師志望者以外の教育の問題をテーマとする旨が示され、話題提供が2校から行われました。

1. 清水めぐみ先生(東北福祉大学) 多様な資格取得が可能な学修の特色、例えば「心理学を学んで養護教員になりたい」等、公認心理師志望者以外の学生がともに学んでいる学科の状況が紹介されました。次に、公認心理師以外の選択肢として健康心理士や企業就職等を提示していること、公認心理師養成課程のみ履修可能な「心理アセスメント」等の科目を設置して質の保証を担保していること等、履修モデルの具体的な取り組みが紹介されました。また、公認心理師志望者の選抜試験や受験の前提条件、選抜についての説明についてもご提示いただきました。

2. 眞榮城和美先生(白百合女子大学) まず、学科の現況、教員編成、メーリングリスト活用による教員連携、カリキュラムの説明がなされました。志望者を絞る基準については、単位取得状況やGPAの利用と、実習担当教員が相談に応じ、毎年ガイダンスを実施して学生に周知していること、学生による自主的取り下げもあることを具体的にご提示いただきました。なお、公認心理師を志望しない学生も養成科目の受講は可能であり、社会連携活動への参加等の工夫についても紹介されました。最後に、大学院志望状況や志望者支援についてもご提示いただきました。

3. 小グループ・ディスカッション 公認心理師志望者を絞るための工夫や仕掛けについての課題があることを中心に、情報交換とディスカッションが行われました。質疑応答では、両先生から、各大学の事情について詳しい説明をいただきました。

セッション3：大学課程から大学院課程への連携-カリキュラムを含む諸問題-

オーガナイザーの宮崎圭子先生(本連盟実習演習検討委員、跡見学園女子大学)より、セッション3では大学課程における公

認心理師養成カリキュラムの1期生が今年度で卒業年度を迎えたことを踏まえ、この4年間でみえてきた諸問題をテーマとする旨が説明され、話題提供が2校から行われました。



オーガナイザー：宮崎圭子先生



話題提供：中谷敬明先生



話題提供：永田雅子先生

1. 中谷敬明先生(岩手県立大学) 大学課程では社会福祉関連科目が必修であること、3年次から心理科目が増える等の特徴が示されました。カリキュラム配置については、公認心理師志望者は他の資格取得が難しいこと、学生にはその旨オリエンテーションで説明していることが紹介されました。教員間でカリキュラムの配置等について協議し、課題を共有していることも報告されました。課題として、学部と院とのつながりが少ないこと、コミュニケーション力が2極化していることが挙げられました。

2. 永田雅子先生(名古屋大学) 大学課程の概要が示された後、大学の特色として、研究者養成のため大学院教育に重点が置かれていること、心理職養成の長い歴史を持つこと、教員配置、カリキュラム等が提示されました。課題として、3年次編入生への対応例、実習施設の確保の難しさ等が挙げられ、実習内容・実習時間の再検討を行った例が紹介されました。また、大学院との連携、教育実習や就職活動との兼ね合い等、他大学も抱えている諸課題についても具体的に紹介されました。

3. 小グループ・ディスカッション カリキュラムに関する課題は養成校で共通する内容も多く、科目配置の工夫、大学院との連携等について議論が交わされました。質疑応答では、両校の取り組みについて、さらに詳しい内容をご紹介いただきました。

閉会の挨拶 野島一彦先生(本連盟常務理事、跡見学園女子大学)より、閉会の挨拶がありました。また、(こころの科学)増刊「公認心理師になるための大学案内—こころの専門家になろう! (仮題)」の執筆協力依頼がなされました。

当日アンケート 当日アンケートでは、4年間の養成を通してカリキュラムを改めて考え直した、実習の位置づけを見直したい、公認心理師志望者以外の学生への教育を工夫したい、公認心理師志望者への選抜について各大学の取り組みが参考になった等のご意見をいただきました。

各セッション後半に行われた小グループでの意見交換の内容は大変貴重な情報であり、これまでの研修会時と同様、情報を匿名化して取りまとめた後に、本連盟のホームページにて会員間で共有する予定です。ホームページ掲載時には、メールニュース等でもご連絡致します。

会員情報に変更があった場合

登録されている会員情報に変更があった場合は、本会ホームページの「会員情報変更届フォーム」からお手続きください。

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟
事務局 〒169-0075
東京都新宿区高田馬場3-2-14-414
お問合せは、連盟ホームページ「お問合せ」フォームからお願いします
URL: <https://kouyouren.jp>